

マイキープラットフォームによる 自治体の業務刷新と地域活性化 に関する提案

2016年2月12日
地域情報化アドバイザー
廣川 聡美

1 地方公共団体・地域における利用者IDカード等利用の現状

The diagram illustrates a resident's experience with multiple ID cards. A central figure of a man with a thoughtful expression is surrounded by icons for various public facilities, each with a corresponding colored ID card icon: a red card for the Career Learning Center (生涯学習センター), a blue card for the Library (図書館), an orange card for Sports Facilities (スポーツ施設), a green card for the City/Town/Village Office (市町村役場), and a blue card for the Public Hospital (公立病院). A box labeled '住民の声' (Resident's Voice) is positioned below the resident.

住民の声

- ① 団体、施設、サービスごとに、別々のカードやIDが発行されている。持ち歩きが手間。見つけにくい。
- ② カードがないと、手続きに時間がかかる。
- ③ 使用料等の支払は別なので、一度で用が足りない。
- ④ ボランティアポイント等も、それぞれ別のカード。
- ⑤ みんな1枚のカードで使えると良いのに。
(商店街のポイントカードなども含めて…)

地方公共団体の声

- ① 歴史的経緯から、複数のカード(ID)が発行され、運用されている。カードの集約が課題。
- ② カードやシステムの経費は財政負担となっている。
- ③ 業務やシステムの刷新を行いたい。
- ④ 既発行カード(ID)が、業務やシステム刷新の足かせのひとつになっている。
- ⑤ 使用料等の現金収納は現場の事務負担となっている。
- ⑥ 窓口で、お客様を待たせたくない。
- ⑦ 広域利用や、サービスの高度化も実現したい。
- ⑧ 地域コミュニティや産業の活性化の役に立てたい。

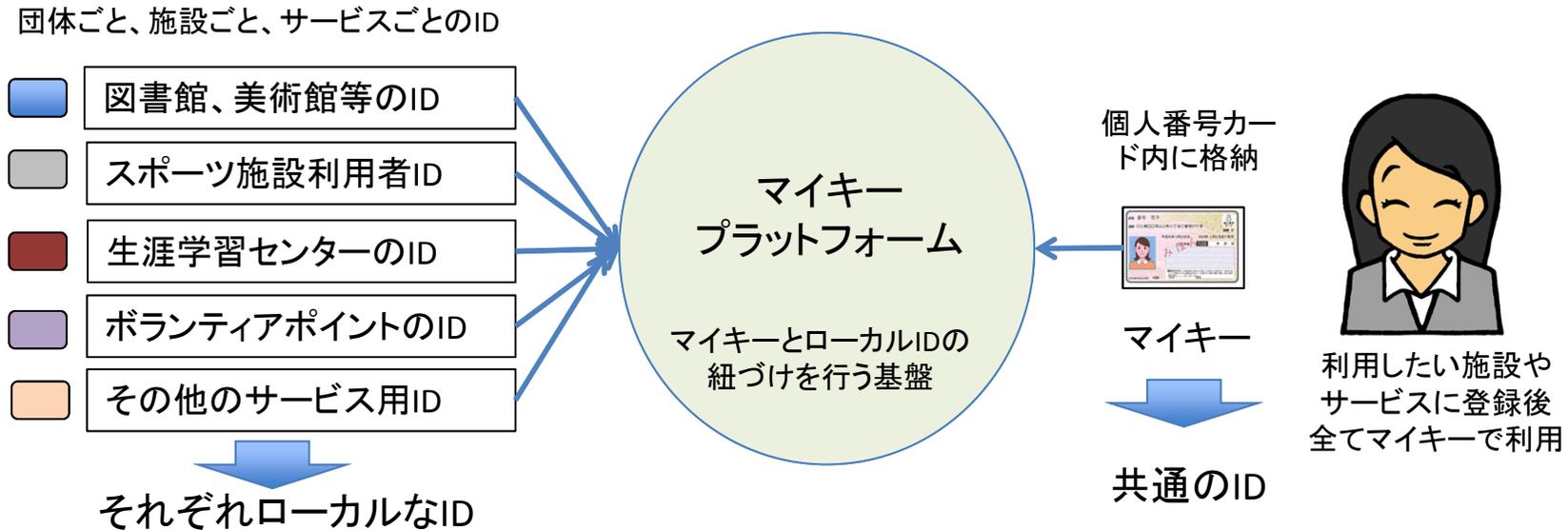
カード代金(参考例)

プラスチックカード 30円/枚
(印刷、バーコード貼付)

プラスチックカード 40円/枚
(印刷、磁気シール貼付)

ICカード 250~500円程度/枚
(印刷代含む)

2 マイキープラットフォームで何が変わるか



マイキープラットフォームにより
ローカルなID → 共通IDと連携させる(置き換える)ことが可能

さらに、地方公共団体の業務・システムの標準化・BPR、サービス高度化、広域連携を進めて、効果を高める

団体ごと、サービスごとの
ローカルなID



マイキー(共通ID)と連携、置き換え
→ マイキーでローカルなサービスを共通利用

団体ごとのシステム



マイキー導入等を契機にクラウドに移行へ
(パブリック・クラウド等)

団体ごとの業務フロー



標準化された業務フローでBPR

団体ごとのサービス



広域での切れ目のないサービスで利便性向上

3 マイキープラットフォームの効果

住民(国民)の効果

- ① カードが1枚に集約
- ② ワンストップサービス
決済サービスを加えて、一度で手続完了
- ③ サービスの連携・高度化
関連サービス間の連携を実現
分析機能やレコメンド機能で、最適なサービス
選択を支援(アプリ開発により実現)
- ④ 広域でのシームレスな利用
通勤・通学・生活圏の公共施設のシームレスな利用
(広域連携、システム連携により実現)
- ⑤ 地域コミュニティでの活用
公共サービスだけでなく、ボランティアポイントや、文化
スポーツサークルなどコミュニティ活動にも活用
さらに、地域商店街のポイントサービス等との連携も
視野に



- ・カードの集約
- ・利便性向上・時間節約
- ・まちの活性化

地方公共団体の効果

- ① カード発行経費の節減
- ② システムの刷新による節減
マイキー導入等を契機にシステムを刷新
パブリッククラウド導入等による経費節減
業務改革のための分析やAI機能の付加も期待
- ③ 業務改革(BPR)
システム刷新に合わせて業務を標準化
業務・組織の見直し実施
収納業務の効率化、ワンストップ化
- ④ 広域連携
住民の利便性の向上
割り勘効果による経費節減
広域での施設再配置の検討等
- ⑤ 新規サービスの提供
マイキーを活用したアプリ開発により、
サービスの高度化、新規サービスの提供

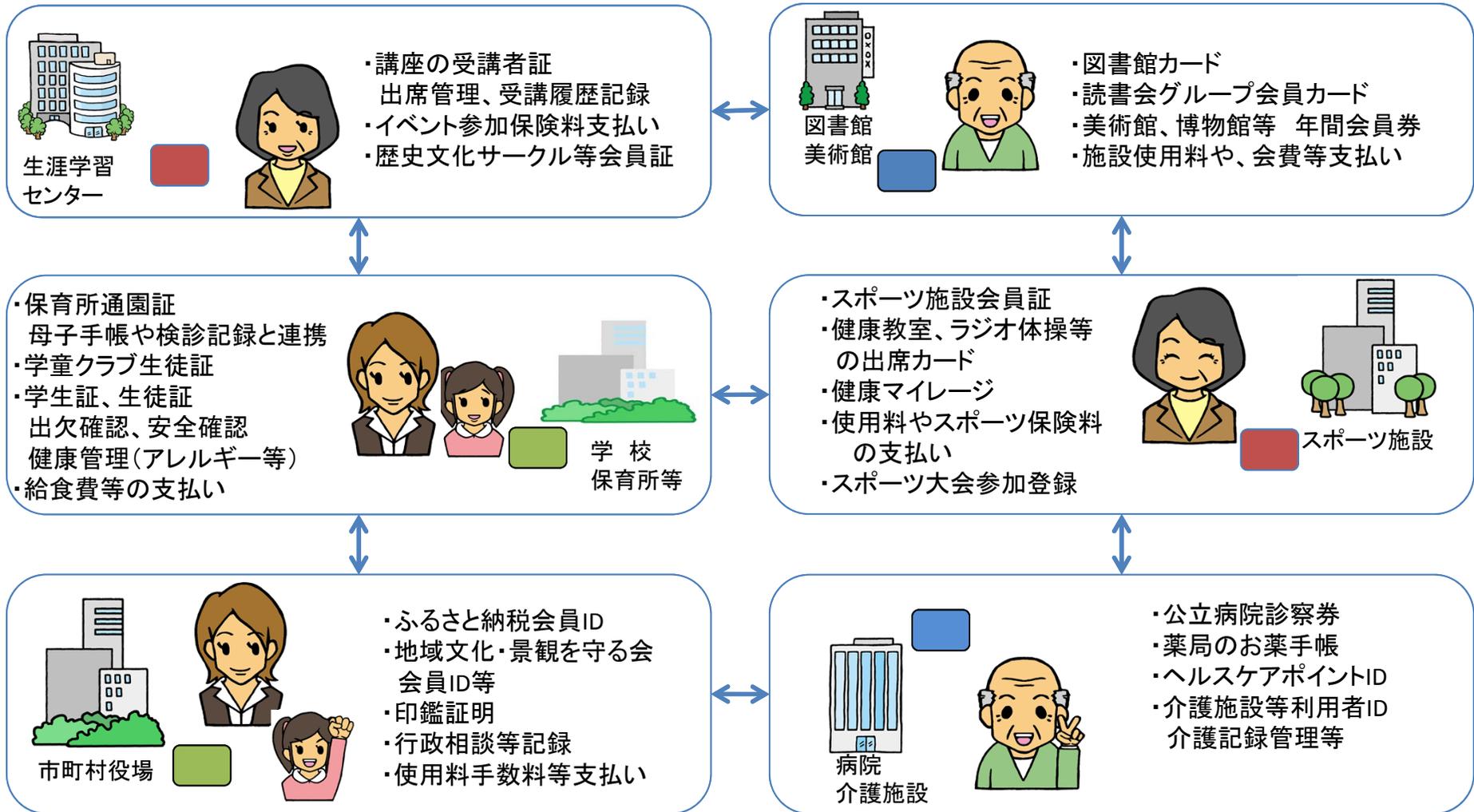


- ・業務効率化、経費節減
- ・サービスの高度化、連携
- ・新規サービスの提供

4 公共施設等における利用イメージ

各公共施設等の多様なサービスを、1枚で

1枚で、全国の公共施設で活用可能に



地域活動、広域連携等



- ・ボランティアポイント
- ・広域連携
- ・商店街等との連携

5 活用のための5つのポイント

① 豊富な利用メニュー

- ・サービスメニューを豊富にすべき。日々の暮らしの中で使ってもらえるようにすることが大事。
- ・地方公共団体のサービスだけでなく、ボランティアポイントなどコミュニティ活動に加え、地域商店街におけるポイントサービス等との連携も視野に入れることができれば、一層便利になる。

② より高度、高品質なサービス

- ・サービスメニューを増やすだけでなく、サービス品質も高めるようにすべき。
- ・住民のニーズに合ったサービス(選択されたサービス)が、統合的かつ効率的に提供されるように、分析機能やAI機能を活用したサービスを提供できるようにすることなどが期待される。(今後の開発に期待)

③ 広域での利用

- ・個々の地方公共団体だけでなく、広域でシームレスにサービスを利用できるようにすべき。
- ・全国の公共施設等で利用可能になることを期待。

④ 住民視点のサービス再編

- ・マイキー導入を契機に、提供者の視点から住民視点へのパラダイムシフトを図る。
- ・提供主体のあり方、提供内容、提供方法、タイミングなどを見直し、住民視点で再編することが必要。

⑤ オプトイン方式

- ・マイキーの登録は、住民(利用者)の意思・意向によるオプトイン方式とすべき。

6 高度利用・広域利用のイメージ

全国ふるさとクラウド

～人々とふるさとをつなぐ仕組み～

出身地をはじめ、大切にしたいまちや人々と出会い、縁をつなぐクラウドへのアクセスキーとして活用する。

利用者が希望すると、利用者の嗜好や興味に合うふるさとを紹介。また、文化、景観、物産やイベントなどを情報をプッシュ型で提供するとともに、ふるさとの人や文化し、縁を繋ぐきっかけを作る。

物産の購入、ふるさと納税、ナショナルトラストへの参加が簡単におこなうことができるようにするとともに、ふるさとの暮らしや仕事を紹介し、1ターンやUターンの窓口としての活用も期待できる。

クラウド内に、〇〇町ファンクラブを設立し、誘致活動を行うこともできるのでは。

健康マイレージ全国選手権

～健康長寿の励みになる～

高齢者の健康づくりのための健康マイレージの全国版ランキングを、テレビ局等の支援を受けて実施する。

種目別の部、総合の部、年齢年代別等に分け、また無理をせず、長続きをすることが高評価に繋がるような設定とし、達成度を適時確認できるようにすることにより、モチベーションを高める仕組み。

子育てプラットフォーム

～子育ての問題解決を支援する～

子育ての問題、疑問に、専門家や地域の経験者等が24時間、チームで対応し、サポートする。

保育施設をはじめ関係施設相互の連携を密にして、分厚い支援を行うための情報基盤とする。

子育てを支援できる人材に登録してもらい、保護者が病気の時などに、柔軟にピンポイントで支援できる仕組みなども組み込みが可能。

子育ての問題解決事例を分析し、AI機能を活用して、短時間に最適な支援策を講じることができるようにすることにより、問題のエスカレートを防ぐことも可能。

まち活ポイントシステム

～まちを皆で盛り上げる～

商店街やまちのイベントへの参加を促進するための総合ポイントシステムとして活用する。

まちの名所めぐりポイント、鉄道駅めぐりポイント、居酒屋めぐりポイント、イベント参加登録、ご当地検定段級位登録婚活イベント登録等の場面で活用。

また、利用者と利用者、利用者とお店のマッチング機能やレコメンド機能等、多様なアプリと仕掛けで盛り上げる。